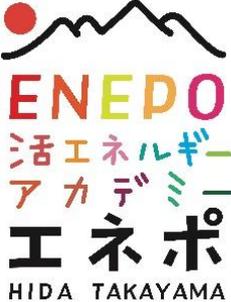


中部山岳国立公園パートナー取組予定

(五十音順 令和4年3月12日締結企業)

企業・団体名	取組予定の概要
<p>NPO 法人活エネルギー アカデミー</p> 	<p>(1) 高山市30ヶ所(令和4年現在13カ所120名登録)で展開する木の駅プロジェクトのネットワークを活用し、中部山岳国立公園の魅力などを紹介する(会報エネポ通信(年4~6回発行の広報誌)において中部山岳国立公園の魅力等の情報発信を行うなど)。</p> <p>(2) 当法人の構成員を募って、中部山岳国立公園である乗鞍の山を歩きながら樹木の判別や生態を学ぶ。講師は元森林文化アカデミー教授:横井秀一氏を予定。その活動状況は当法人のホームページやSNSを通じて、その様子や乗鞍の魅力を配信する。</p> <p>(3) 中部山岳国立公園地域内にある、森林の保守・保全活動(下刈り、間伐、植樹など)に協働参加し、間伐材の資源ネットワークの構築や、材を有効活用した商品の開発を目指す(間伐材を活用した擁壁・林道整備、薪への活用など)。その際、当法人が培った森林環境保全の活動事例、里山の暮らし等を持続可能なモデルとして紹介し、国立公園における持続可能な地域づくりに寄与する。</p>
<p>株式会社コロンビア スポーツウェアジャパン</p> 	<p>(1) 年間通じて中部山岳国立公園でのアウトドアアクティビティイベントを開催する。(乗鞍岳のトレイル整備、乗鞍BASEにおけるキャンプイベントの開催、中部山岳国立公園の自然環境保全等に関する講演会の実施など)</p> <p>(2) Columbia公式HPやSNSを通じて、中部山岳国立公園の魅力や各種連携及び活動を情報発信を行う。</p> <p>(3) コロンビア直営店でのパンフレット設置などによる送客に努める。</p> <p>※(1)~(3)についてはいずれも中部山岳国立公園の知名度向上を図るべく、中部山岳国立公園というキーワードを露出して実施する。</p>
<p>株式会社ゼインアーツ</p> 	<p>(1) キャンプ等のアウトドア愛好家に向け、テント等のアウトドアギアを企画・開発する地域に根ざしたブランドとして、類まれなるアウトドアフィールドを保有する中部山岳国立公園の魅力情報を発信する。その際、中部山岳国立公園というキーワードを露出させることで、中部山岳国立公園の知名度向上を図る。</p> <p>(2) 中部山岳国立公園の魅力や地域の活動を情報発信できる機会としてキャンプイベントを開催し、集客を図りながら公園の保護と利用の推進について普及啓発を行う。</p>

	<p>(3)中部山岳国立公園における諸課題の解決及び地域ビジョンの実現に向けた地域活動をより加速させるべく、売り上げの一部を地域活動に対して還元する仕組み作りを目指す。具体的には、乗鞍地域におけるゼロカーボンパークの実現に向けた取組などに対して活用することを想定する。</p>
<p style="text-align: center;">株式会社 ボーダレス・ジャパン</p> 	<p>(1) 自然エネルギー100%の電力を普及させる。ゼロカーボンパークである乗鞍高原において、電気契約者の50%が自然エネルギー100% (※1) の電力契約となること目指し、ハチドリ電力契約者(そのうち乗鞍高原への支援希望を選択した者。乗鞍高原だけでなく全国の契約者を対象とする)の電気料金の1%が中部山岳国立公園乗鞍高原地域の環境保全や地域活性化など地元ののために使われるような基金を設立する。</p> <p>(2) 自社 Web サイトにおける中部山岳国立公園のPRや地域活性化支援を行い、地域の脱炭素化及び持続可能な社会の形成に寄与していく。</p> <p style="text-align: center;">※1 非化石証書(再エネ指定)の購入により実質的に自然エネルギー100%の電気の供給を実現する。</p>
<p style="text-align: center;">株式会社やまとわ</p>  <p style="text-align: center;">やまとわ</p>	<p>(1) 中部山岳地域の地域材や修景伐採の材木などを生かした木製品づくりを実施。中部山岳国立公園をキーワードとして、地域の森の歴史や文化なども製品づくりの物語として位置づけることで、地域資源に付加価値をつけ、さらにこれらを Web サイト等において情報発信をすることで中部山岳地域の認知向上を目指す。なお、木材は各種法令に基づき伐採されたものを活用する。</p> <p>(2) 乗鞍高原の未利用材を使い、ビスも塗料も使わない自然に優しいベンチづくり。自然のものだから普通は腐るという当たり前のことを認識してもらうイベント。腐ったら自然に返して、ベンチをみんなで作り直すというイベントを通して、地域の資源への感謝と自然のものが腐るのが当たり前という感覚を取り戻す。</p>